

添付文書に記載のあるフィルター使用が**必要**な採用薬一覧

薬剤部 薬品情報室



最終確認は必ず添付文書などをお願いします

薬剤名	目安	概要
アクテムラ点滴静注用	必須	インラインフィルターを用いて投与すること
エポプロステノール静注用「ACT」	必須	フィルターを接続した精密持続点滴装置を用いて
エボルトラ点滴静注	必須	調製時滅菌済みシリンジフィルター(孔径0.2 μ m)でろ過し、5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液で希釈して最終的に0.15~0.4mg/mLの濃度に調製
オブジーボ点滴静注	必須	インラインフィルター(0.2又は0.22 μ m)を使用すること
オレンシア点滴静注用	必須	0.2~1.2ミクロンのメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること
カドサイラ点滴静注用	必須	0.2又は0.22 μ mインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製)を通して投与すること
ギャバロン髄注	必須	注射器に0.22 μ mのフィルターを必ず装着し、ポンプの充填用薬剤注入口へ行う
サイモグロブリン点滴静注用	必須	インラインフィルター(ポアサイズ0.2ミクロン)を使用すること
サングロポール点滴静注用	必須	コアリングが発生する可能性があるため
ジェブタナ点滴静注60mg	必須	0.2 μ mもしくは0.22 μ mのフィルターを通すこと。吸着およびDEHP輸出のおそれあるためPVCフリーの輸液セットを用いること
トーリセル点滴静注液	必須	孔径5 μ m以下のインラインフィルターを使用すること
パクリタキセル注	必須	0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること
ビスダイン静注用	必須	インフュージョン・ラインフィルターを用い、10分間(3mL/分)かけて静脈内に投与する。
ベクティビックス点滴静注	必須	インラインフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を使用すること
マイロターグ点滴静注用	必須	1.2 μ m以下の蛋白結合性の低いメンブランフィルター(ポリエーテルスルホン製等)を用いたインラインフィルターを通し末梢静脈又は中心静脈ラインを使用すること
リゾビスト注	必須	添付のフィルター(孔径5 μ m)を必ず接続して投与すること
レミケード点滴静注用	必須	1.2ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること
イトリゾール注1%	条件付き	添付の専用フィルターの場合以外使用不可
ピノルピン注射用	条件付き	シリコンオイルの浮遊物がみられることがある。その場合はフィルターを使用して投与すること
ファブラザイム点滴静注用	条件付き	0.2ミクロンのインラインフィルターを使用することが望ましい



薬剤名	目安	概要
アブラキサン点滴静注用100mg	×	インラインフィルターは使用しないこと。 ^⑧
アプレズリン注射用20mg	×	表面への吸着の報告あり。 ^⑨
アムピゾーム点滴静注用50mg	×	インラインフィルターを用いる場合、平均孔径1.2μm未満のフィルターを使用してはならない。(孔径0.2μm及び0.45μmのインラインフィルターでは目詰まりを生じる。) ^⑧
アルブミン-25%静注12.5g/50mL	×	フィルターの種類により通過させるのにかなりの時間が必要なものがあつた為、0.2μmのフィルターは通過できないものと考えられる。 ^⑪ ※アルブミン-5%はフィルター使用可能 ^⑪
イントラリポス輸液10%	×	分子量大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 (脂肪乳剤は孔径1.2μmの専用フィルター使用可) ^⑨
イントラリポス輸液20%		
エスポー注射液750	×	35%がフィルターに吸着されたと報告あり。 ^⑪
エトピンド点滴静注液100mg「サンド」	×	エトピンド製剤を希釈せずに用いると、セルロース系フィルターを溶解させるとの報告があるので1.0mg/mL以上の高濃度でのセルロース系のフィルターの使用を避ける。 ^{②⑧}
オキサロール注	×	フィルターに吸着するおそれあり。 ^⑨
オルダミン注射用1g	×	粘調性高いため使用不可。 ^⑪
オルプロリクス静注用1000	×	フィルターに吸着するおそれあり。 ^⑩
オンコピン注射用1mg	×	2mg(1mg×2V)/2000mL, 3~4mL/minでは吸着を認めない。 ^① しかしフィルター及び輸液バッグに吸着する性質がある。 ^{②④}
グランシリンジM300	×	0.15mg(150μg×1A)/100mL, 1mL/minで吸着を認める。 ^①
グリセオール注	×	粘度が高く、分子量大きいため、フィルターを目詰まりさせる。0.2μmフィルター通過不可。 ^⑨
ケイツーN静注10mg	×	20mg(10mg×2A)/2000mL, 1.2mL/minで吸着を認める。 ^①
献血アルブミン25「化血研」	×	分子量大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑨ ※献血アルブミン5%静注はフィルター可
献血グロベニン-1静注用5000mg	×	分子量大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑨
献血ノンスロン1500注射用	×	分子量大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑨
献血ノンスロン500注射用	×	分子量大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑨
献血ベニコロン-1静注用2500mg	×	分子量大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑨
コスメゲン静注用0.5mg	×	フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
サイレース静注2mg	×	6mg(2mg×3A)/300mL, 1mL/minで吸着を認める。 ^①
サンディミュン点滴静注用250mg	×	ポリ塩化ビニル製の輸液容器・輸液セットへ吸着が認められるため、PVCフリーを使用する。点滴初期にフィルターへの吸着が認められるため、使用する際は注意が必要である。 ^{⑦⑧}
セルシン注射液10mg	×	5mg(5mg×1A)/2000mL, 3~4mLで吸着。 ^① 50mg(10mg×5A)/500mL, 1mL/minで吸着。 ^①
ディプリパン注-キット	×	微生物ろ過フィルターを用いて本剤を投与しないこと。[エマルジョンが破壊されることがある。] ^⑧
低分子デキストランL注	×	分子量大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑨
ドキシル注20mg	×	リポソーム製剤のためインラインフィルター不可。 ^⑪
ノイアップ注(25、100)	×	0.1mg(100μg×1V)/100mL, 1mL/minで吸着を認める。 ^①
ノイトロジン注(50μg、100μg、250μg)	×	フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
ノボラピッド注100単位/mL	×	フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
ヒューマリンR注100単位/mL	×	フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
ファンギゾン注射用50mg	×	1.0μm以上のフィルターを使用 ^⑧
フィルグラステムBS注シリンジ「モチダ」(75μg、150μg)	×	0.15mg(150μg×1A)/100mL, 1mL/minで吸着を認める。 ^① ※先発品グランでのデータあり
フェジン静注40mg	×	フィルターの通らないルート推奨。コロイド粒子が壊れる可能性あり。 ^⑪
フェノバル注射液100mg	×	エアフィルターを親水化し、エアブロックや液漏れを起こさせる ^① ※ノバルバルは可(残存97%以上) ^⑩
プログラフ注射液2mg	×	タクロリムスはPVC製の輸液セットや器具等に吸着が認められるため使用を避ける。点滴初期にフィルターへ8-18%程の吸着が多く見られる。 ^{⑥⑧}
プロポフォル注(1%、2%)	×	微生物ろ過フィルターを用いて本剤を投与しないこと。[エマルジョンが破壊されることがある。] ^⑧
ラスリテック点滴静注用1.5mg、7.5mg	×	フィルターを使用しないこと。 ^⑧
リブル注5μg、10μg	×	乳化剤、懸濁剤のためフィルターとの相性が悪く、目詰まりさせるもの。 ^②
リメタゾン静注2.5mg	×	乳化剤、懸濁剤のためフィルターとの相性が悪く、目詰まりさせるもの。 ^②
ロピオン静注50mg	×	粒子径が大きく、フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
アレビアチン注250mg	△	原液のままでは輸液フィルターを目詰まりさせる可能性あり。注入前後にフラッシュの必要あり。 ^⑨ ※原液以外のデータなし
エクザール注射用10mg	△	ナイロン系フィルター不可。セルロース・ポリスルホン系フィルター可 ^⑧
大塚糖液50%	△	フィルターは通過するが溶出速度が遅延する可能性がある。 ^⑪
献血ヴェノグロブリンIH5%	△	フィルターは通過するが溶出速度が遅延する可能性あり。 ^⑪
サンドスタチン皮下注用50μg	△	インラインフィルターにて約20%吸着したデータあり。 ^⑪
ブドウ糖注50%シリンジ「テルモ」	△	フィルターは通過するが溶出速度が遅延する可能性あり。 ^⑪
20%マンニトール注射液「YD」	△	フィルターは通過するが析出する可能性あり。 ^⑪
ミダゾラム注10mg「サンド」	△	フィルターの種類によって含量低下を起こす可能性あり、注意。 ^⑪ ※10mg(2mL)/生食500mLをフィルターろ過した場合、PALLO.2μm(11%吸着)、TORAYO.22μm(6.8%吸着)、TERUMO.2μm(3.5%吸着)

〈参考資料〉

- ①テルモ株式会社学術情報部社内データ「ファイナルフィルター-PSの薬剤通過性資料」(1998年1月~2001年1月)
 ②倉本敦夫:注射用ファイナルフィルター使用上の注意について、PHARM TECH JAPAN、11(10)(1995)
 ③若林康子、稲毛治夫ほか:注射薬のフィルター通過性試験、薬事新報1741(1993)
 ④下枝貞彦、平田尚人ほか:骨髄移植医療における薬剤師業務の新たな展開、日病薬誌36(7)(2000)
 ⑤トーアエイヨー株式会社社内資料「ミオコール点滴静注50mgの輸液フィルター吸着試験」
 ⑥アステラス製薬株式会社社内資料 ⑦ノバルティスファーマ株式会社社内資料「サンディミュン注射液のフィルターへの吸着試験」1996年5月作成
 ⑧IF・添付文書 ⑨今これだけは知っておきたい! 注射薬配合変化Q&A -根拠でわかる注射・輸液配合時の事故防止策- じほう
 ⑩アルフレッサ資料 ⑪メーカーDI回答